室蘭消防沿革史

年月日	火災・災害	総務・組織・庁舎	警防・救急・車両・装備	予防・防火協力団体	消防署	消防団	内　　容
明治7年2月22日		○					消防五人組の発足 消防五人制度を施き、市街を23組に分け、各組に組頭を置き火事に備えた
明治8年5月		○					夜廻り制度を設け、市街を巡回した
明治10年4月				○			開拓使室蘭出張所から市会所を通じて、火災・盗難予防の掟を定めた
明治21年4月		○					私設消防組の発足
			○				鳶職高橋鉄五郎が組頭となり腕用ポンプ1台で西小路・緑町・港町を警戒区域とした私設消防組が誕生
明治27年4月1日		○					公設消防組の発足
		○					消防組規制の施行により公設消防組（初代組頭土木請負業篠原貞治）を設置
明治38年6月28日	○						千歳町一帯の低地区で水害 （床上浸水　298戸、床下浸水　374戸、家屋破損　1戸）
明治40年4月		○					組頭河田幾次郎は、2部制実施を組員の増員を行った 第1部　海岸町49番地　人員57名 第2部　札幌通り（港町111番地）人員56名
明治42年5月			○				北海道炭鉱汽船㈱社長宇野鶴太郎から蒸気ポンプを寄贈された
		○					海岸町21番地に置場を新築配置したことに伴い第3部を増設、小頭1名、消防手20名増員 警戒区域は町一円と定められた
明治43年4月		○					日本製鋼所の事業拡張に伴い母恋北町35番地に室蘭消防組第4部を増設
		○					消防体制 人員 191名　腕用ポンプ3台、蒸気ポンプ1台
明治43年6月5日	○						海岸町、浜町、本町、札幌通りの低地区で水害 （家屋 1,396戸浸水　損害額 13,960円）
明治44年3月29日				○			室蘭火災予防組合規則が制定され、各町に火災予防組合を組織
大正元年12月21日	○						浜町9番地（浜町銀座マーケット）岩田旅館で火災（浜町、札幌通り千歳町、本町に延焼し、471戸全焼）
大正2年2月			○				日本製鋼所から市原式蒸気ポンプ1台を寄贈され第4部（母恋）に配置
大正3年11月3日	○						札幌通りの火災（浜町・千歳町に延焼し、265棟52戸焼失）
大正5年4月			○				上水道の施設完成に伴い消防用地下式消火栓110基を設置し、手曳水管車6台を配置
大正6年2月			○				ガソリンポンプ馬挽1台及び手曳3台を購入
大正7年2月1日		○					御前水町の人口増加により第4部を消防手15名増員し、腕用ポンプ車1台を配置
大正7年2月1日		○					室蘭町に区制が施行され輪西村を区に編入したので、輪西消防組を室蘭消防組第5部と改称 （警備区域は輪西町、本輪西町、元室蘭町）
大正7年11月		○					海岸町詰所内に室蘭消防組常備部を併置し、機関手1名消防手5名を常置し警備区域は室蘭一円とした
大正7年12月1日		○					元室蘭警察署消防係巡査部長星田隆光が常備本部長に任命された （消防体制は、常備部1・第1部～第5部・263名）
大正8年4月			○				日本製鋼所の事業拡張に伴い、有志の協力によりガソリンポンプ手曳車1台が　寄贈され、御前水町に第5部が増設、輪西町は第6部となった
大正8年6月5日		○					常備消防本部を千歳町3番地に望楼及び部長住宅付きで新築
大正10年6月		○					常備消防本部　第2部（港町）　第3部（御前水）
			○				水管自動車を区民有志者の寄付を得て購入配置
大正10年6月20日		○					ラッパ森派出所を木造平屋建車庫及び住宅付きで建築
大正12年7月14日	○						暴風雨襲来（浸水家屋 264戸、倒壊家屋11戸、半壊家屋13戸）
大正14年3月		○					消防体制 港町分遣所（4）、常備消防本部（15）、ラッパ森派出所（4） 第1部～第5部（221）計244名
昭和2年2月		○					小樽市板谷順助からポンプ自動車を寄贈され板谷号と命名
昭和2年7月1日		○					千歳町3番地に常備消防本部竣工（モルタル造り2階建て、鉄骨、望楼付）
昭和2年8月14日				○			常盤小学校に於いて火防展覧会を開催
昭和3年8月4日			○				第5部に常備消防を併置し、常備員2名配置
昭和4年2月25日		○					電動サイレンを常備消防本部に設置
昭和4年6月17日	○						北辰小学校全焼
昭和4年6月17日	○						駒ヶ岳爆発で翌18日室蘭地方に多量の降灰があった
昭和4年10月25日		○					本輪西町に、本輪西消防組設立（組頭萩原伊平）
昭和2年2月		○					消防体制 常備本部（24）、港町分遣所、ラッパ森派出所、輪西派出所（各1）計27名、ポンプ自動車3台
昭和8年4月1日		○					組織の一部改革で、祝津町に第6部を、本輪西町に第7部を増設 消防体制　人員283名、ポンプ車3台、水管自動車3台
昭和10年9月6日	○						軍艦足柄の爆発火災で、死傷者57名（内殉職16名）
昭和11年2月18日	○						大町金物店火災で5名焼死

室蘭消防沿革史

年月日	火災・災害	総務・組織・庁舎	警防・救急・車両・装備	予防・防火協力団体	消防署	消防団	内　　容
昭和11年5月			○				ポンプ自動車（フォード）購入 （保有台数計5台）
昭和12年7月7日				○			北支櫨溝橋事件勃発に伴い、銃後の守りとして家庭防火群を結成
昭和13年2月1日		○					常備消防部長に辻広治が昇任
昭和14年4月9日		○					警防団の発足
昭和14年4月9日						○	警防団令の施行により、従来の消防組と防護団を解散し、室蘭警防団を結成（団長富田作市）
昭和14年10月2日		○					母恋派出所の設置
		○					（第4分団庁舎を改造し、ポンプ自動車1・常備警防員4名配置）
昭和14年11月			○				日本製鐵㈱輪西製鐵所からV8フォードポンプ自動車寄贈され、第6号車命名し、本部に設置
昭和15年1月			○				㈱日本製鋼所室蘭製作所から母恋方面警備のため39年フォードポンプ自動車が寄贈された
昭和16年2月1日			○				㈱日本製鋼所室蘭製作所から詰所の無償貸与とポンプ車の寄贈を受け、東町派出所として正式に発足
昭和16年2月15日	○						室蘭市役所全焼　（木造2階建て、566㎡）
昭和16年5月2日		○					第6分団本部新築（輪西町138番地）に伴い、常備消防輪西派出所を併置
昭和16年9月			○				本輪西町民から、33年式スチュードベーカー自動車ポンプが寄贈された
昭和16年12月1日						○	水上警防団設置
昭和18年1月22日	○						水元町官立室蘭高等工業学校（現室蘭工業大学）明徳寮火災 （3棟 2,679.6㎡焼失）
昭和18年7月15日		○					官設消防の発足 特設消防署規程の施行により、警防団常備消防部の人員施設を移行し、特設室蘭消防署が設置（初代署長元北海道庁警察部警防課警部桐山勝）本署・直轄・第1(港町)、第2(母恋)、第3(御前水)、第4(輪西)、第5(東町)、第6(中島)、第7（本輪西）の出張所、修理工場　実員 76名
昭和18年8月1日				○			少年消防官誕生
昭和18年8月13日						○	警防団長に若林隆太郎を任命
昭和18年11月1日						○	第8分団、第9分団、第10分団を増設
昭和19年2月21日		○					消防署の定員　219名となる
昭和19年4月26日		○					祝津町に第1出張所が新設され、港町の第1出張所を直轄分遣所と改称
昭和19年10月			○				消防専用電話を架設
昭和20年1月11日		○					消防士兼警部松田正治が消防署長に着任
昭和20年4月6日		○					消防司令兼警視羽賀修平が消防署長に着任
昭和20年4月19日					○		室蘭消防署、消防司令署に昇格
昭和20年12月13日					○		消防司令遠藤武雄が消防署長に着任
昭和21年11月14日					○		室蘭消防署次席消防士兼警部真田清次が消防署長に昇任
昭和22年9月13日						○	警防団・水上警防団を、室蘭消防団・水上消防団に改称
昭和22年11月8日					○		札幌消防次席消防士兼警部向出駒次郎が室蘭消防署長に着任
昭和23年3月7日		○					自治消防の発足 消防組織法の施行により、特設室蘭消防署は室蘭市に移管され自治体消防となる　森政一助役が消防長を兼任、消防署長向出駒次郎 　定員　225名　実員　106名
昭和23年3月			○				米軍払下げ自動車ポンプ（ウエリンポンキャリヤ2台）購入
昭和23年4月5日			○				水槽付消防自動車3台配置
昭和23年8月15日			○				照明自動車（改装）消防本部に配置
昭和23年12月27日		○					消防吏員の階級が現呼称に改正された
昭和24年1月6日	○						崎守町の住宅火災で4名焼死
昭和24年1月11日						○	副団長加藤藤太郎が団長に昇任
昭和24年3月31日		○					総務課、予防課、消防課、機械課及び教養課の5課制を実施
昭和24年4月1日			○				救急車（改装ポンプ自動車）本部に設置
昭和25年1月3日	○						室蘭工業大学の火災　（焼失面積　延べ 2,269坪）
昭和25年5月15日	○						母恋共楽座の火災（660㎡焼失）
昭和25年8月9日				○			東京消防庁音楽隊内藤清吾隊長他22名来蘭（昭和26年5月22日再来蘭）
昭和26年2月6日	○						市立室蘭病院の火災（2,890㎡焼失）
昭和26年8月1日			○				第一出張所（祝津）に消防専用電話架設
昭和26年9月1日		○					消防長兼署長に向出駒次郎が昇任
昭和26年10月			○				消防車の保有台数 ポンプ自動車　12台、タンク自動車　5台、照明車、救急車、　指令車、器具車、移動修理車　計22台
昭和27年3月7日			○				消防訓練所発足
昭和27年3月7日		○					消防出張所の名称変更 本部、直轄、祝津、母恋、御前水、輪西、東室蘭、中島、本輪西

室蘭消防沿革史

年月日	火災・災害	総務・組織・庁舎	警防・救急・車両・装備	予防・防火協力団体	消防署	消防団	内　　容
昭和27年6月16日			○				自動車分解整備事業者の認証を受け、修理工場を「室蘭市消防本部整備工場」に改称
昭和27年9月						○	消防団第10分団が第9分団に併合され、これにより陸上の消防団が9個分団となった
昭和27年9月17日		○					輪西出張所の新築（ＲＣ造一部2階建て　延98.22坪）
昭和28年4月1日		○					室蘭海上保安部と室蘭市消防本部との船舶消防に関する業務協定成立
昭和28年8月1日						○	室蘭水上警防団から室蘭消防団水上分団と改称
昭和28年9月18日						○	第1回室蘭市消防署・消防団の技能競技大会開催
昭和28年12月1日				○			少年消防クラブの結成（北辰中学校、武揚小学校）
昭和29年4月22日				○			火災報知機を蘭西地区に始めて設置
昭和29年6月18日		○					母恋出張所新築（ブロック造一部2階建て　延50.75坪）
昭和29年8月3日	○						油槽船第28日宝丸火災
昭和30年1月		○					消防ラッパ隊発足（単筒ラッパ）
昭和30年1月27日			○				消防用無線電話機を司令車に積載
昭和30年12月26日			○				第3期上水道工事（知利別配水池）完成し、消火栓の断水が解消
昭和31年			○				国庫補助による貯水槽（40ｔ）新設が開始
昭和31年9月2日			○				日本損害保険協会から消防タンク自動車が寄贈された
昭和31年12月		○					消防体制 定数　220名　実員　175名　団定数　436名
昭和31年12月			○				消防体制 タンク車　7台、ポンプ車　8台、予備ポンプ車　3台、特殊車　5台、（照明、司令、修理、乗用、器具）
昭和32年4月18日			○				署員の労力奉仕と市民の協力による貯水槽増設工事が開始
昭和32年5月5日			○				室蘭信用金庫から消防ポンプ自動車が寄贈された
昭和32年6月17日		○					本輪西出張所新築（ＲＣ一部ブロック造り2階建て、望楼20m）
昭和32年6月18日					○		消防署に隊長制度導入（蘭西・蘭東・本輪西の各地区）
昭和33年12月19日				○			室蘭市危険物防火協会設立（現　室蘭市危険物安全協会）
昭和34年2月24日				○			常盤小学校少年消防クラブ結成
昭和34年8月29日			○				室蘭市消防本部機械整備工場が市民会館建設のため解体閉鎖
昭和34年9月3日						○	室蘭市消防後援会の設立
昭和35年3月31日			○				日本埠頭㈱から消防ポンプ自動車が寄贈された
昭和35年5月27日			○				室蘭信用金庫から水槽付消防自動車が寄贈された
昭和35年6月1日		○					高薄豊次郎助役が消防長を兼任
昭和35年8月3日				○			室蘭市消防音楽隊発足
昭和36年3月31日			○				消防用超短波無線電話装置設置
昭和37年3月6日			○				高性能無線機（基地局）新設
昭和37年3月26日		○					伊藤喜代司総務部長が消防長を兼任
昭和37年3月26日		○					室蘭市消防本部の機構改革により総務、経理、予防、機械、消防、教養の6課から3課11係に改正　　総務課（庶務、統計、教養、経理）
昭和37年3月26日			○				消防課（消防、機械、整備、通信）
昭和37年3月26日				○			予防課（予防、普及、建築調査）
昭和37年4月2日			○				室蘭信用金庫から救急車が寄贈された
昭和37年6月2日			○				移動修理車（中古小型4輪車）配置
昭和37年10月31日		○					消防庁舎竣工（室蘭市幸町118番に市役所総合庁舎増築工事の一部として、 1・2階使用、望楼30m）
昭和37年11月10日			○				サイレンによる時報中止 （正午の時報は望楼からのチャイムとなった）
昭和38年3月1日		○					高階重雄秘書室長が消防長を兼任
昭和38年5月28日	○						国鉄高砂寮火災（延2,325㎡全半焼）
昭和38年9月1日		○					専任消防長として北海道総務部から谷口喜一が就任
昭和38年10月31日		○					室蘭市消防本部の機構改革 総務課（庶務、経理）　教養課（教養、指導）
			○				警防課（消防、機械）
				○			予防課（予防、調査）
昭和38年11月1日		○					消防本部総務課に市長部局から職員が出向された
昭和39年4月1日		○					室蘭市職員定数条例の一部改正 消防吏員　212名　　その他の職員　8名（監 1、司令長 1、司令 8、司令補 14、士長 36、士 152）
昭和39年5月			○				空気呼吸器の購入（8個配置）
昭和39年7月					○		消防隊組織発足（隊長（署長）、副隊長（当番司令）、地区隊長）
昭和39年8月			○				全出張所の車両に無線を装備

室蘭消防沿革史

年月日	火災・災害	総務・組織・庁舎	警防・救急・車両・装備	予防・防火協力団体	消防署	消防団	内　　容
昭和39年8月31日		○					東室蘭に合同庁舎竣工（消防署東出張所10月2日移転・望楼30m）
昭和40年5月14日		○					登別町と消防相互応援協定締結
昭和40年5月23日	○						ノルウェーのタンカー「ハイム・バルド号」火災　28日間炎上
昭和40年12月16日				○			室蘭市防火管理者協議会が設立された
昭和40年12月25日		○					祝津出張所合同庁舎完成（旧祝津出張所跡）
昭和41年6月1日			○				消防車による移動消防出張所を開設
昭和41年11月19日			○				日本火災損害保険協会からタンク車が寄贈された
昭和41年12月1日				○			防火モデル地区制度発足
昭和42年3月31日			○				放水塔付重化学車購入
昭和42年4月1日		○					消防士補制度廃止
			○				東出張所に救急車配置
昭和42年7月14日						○	副団長友田貞が団長に就任
昭和42年7月		○					母恋出張所の移転新築 （母恋北町2丁目2番15号）
昭和42年7月		○					御前水出張所廃止
昭和42年7月		○					消防長の階級を消防監から消防正監に昇格
昭和42年12月30日	○						中央町パチンコ店「銀座ホール」火災で7名焼死
昭和43年3月31日		○					高砂出張所合同庁舎完成 （高砂町4丁目1番5号）
昭和43年5月16日	○						十勝沖地震に伴い室蘭市対策本部設置
昭和43年6月		○					消防体制 実員　206名、ポンプ　12台、タンク　4台、その他　10台
昭和43年6月11日					○		消防署長の階級を消防司令長から消防監に昇格
昭和43年6月26日				○			室蘭市危険物防火協会10周年事業として広報車が寄贈された
昭和43年9月1日		○					消防相互応援協定を苫小牧市と、10月5日に伊達市と締結
昭和43年10月8日		○					北海道消防学校校友会設立され、谷口消防長が初代会長に就任
昭和43年10月14日	○						中央町の飲食店（クラブ）火災　（1,014㎡焼失）
昭和44年5月20日				○			室蘭聾学校少年消防クラブ結成
昭和44年8月31日						○	副団長長川正一が団長に昇任
昭和45年3月1日		○					消防副士長制度実施
昭和45年2月5日	○						蘭東中学校火災（307㎡焼失）
昭和45年2月6日	○						高砂小学校火災（336㎡焼失）
昭和45年8月2日			○				北海道防災総合演習実施
昭和45年10月15日		○					東支署事務室の増改築　（ＲＣセラミックブロック造）
昭和46年1月4日	○						中央町のキャバレー火災　（1,152㎡焼失）
昭和46年5月27日		○					消防署長真柄真治が消防長に昇任
昭和46年7月1日			○				望楼勤務を特に必要な場合を除き中止
昭和46年7月29日						○	胆振地方消防総合訓練大会実施
昭和46年11月29日	○						入江町の国鉄入江寮火災で2名焼死
昭和47年9月19日					○		消防救助技術北海道地区指導会に参加
昭和47年11月13日		○					白鳥台出張所開設 （白鳥台5丁目2番1号）
昭和47年12月1日				○			火災報知機の発信機の撤去が始まる
昭和48年4月1日		○					定数条例改正（220名から234名）
昭和49年3月20日			○				測量山に消防無線通信所を開設
昭和49年4月1日		○					定数条例改正（240名）
昭和49年11月2日			○				白鳥台出張所車庫増設（消火原液搬送用タンク車、3000型トレーラー式泡放射砲用）
昭和50年5月28日	○						中央町の大映地下火災（568㎡焼失）
昭和50年6月1日		○					室蘭市環境部長蛎崎泰弘が消防長に就任
昭和50年6月3日				○			消防音楽隊儀礼服整備費の寄付　（前消防長真柄真治氏）
昭和50年6月16日				○			火災報知機を全廃
昭和50年6月26日				○			優良少年クラブとして北海道消防協会から表彰（室蘭聾学校）
昭和50年9月1日			○				昭和50年度室蘭市総合防災訓練実施
昭和50年11月14日			○				フカダ式高発泡装置の購入
昭和50年11月27日		○					西胆振消防組合と消防相互応援協定を締結
昭和51年2月22日			○				室蘭東ライオンズから広報査察車が寄贈された
昭和51年4月1日					○		支署長（司令）を課長職に昇格

室蘭消防沿革史

年月日	火災・災害	総務・組織・庁舎	警防・救急・車両・装備	予防・防火協力団体	消防署	消防団	内　　容
昭和52年4月1日				○			室蘭市石油コンビナート等特別防災区域協議会が設立された
昭和52年5月18日			○				室蘭ライオンズから救急車が寄贈された
昭和52年8月3日				○			日本石油精製㈱室蘭精油所から広報車が寄贈された
昭和52年11月15日		○					隔日勤務者に通年週休制度導入
昭和53年2月27日		○					訓練塔設置（東支署）
昭和53年3月27日			○				大型高所放水車（35m）と大型化学車の導入
昭和53年3月3日			○				東京海上火災保険㈱から広報車（みずたま1号・2号）が寄贈された
昭和53年4月1日		○					定数条例改正（250名）
昭和53年4月1日			○				石油コンビナート地帯防災対策として3点セットを配備し、特科隊を東支署に編成
昭和53年4月1日					○		消防署次席の名称を消防署副署長に変更
昭和53年8月31日			○				日本損害保険協会からタンク車が寄贈された
昭和53年10月1日		○					石油貯蔵施設立対策等交付金制度の発足により交付金決定がなされた
昭和55年3月26日		○					輪西支署新築移転し業務を開始する
昭和55年4月1日		○					室蘭市市民生活部長安藤節夫が消防長に就任
昭和56年4月1日		○					定数条例改正（238名）
昭和56年4月2日		○					本輪西支署合同庁舎完成
昭和56年6月4日						○	第33回北海道消防大会開催
昭和56年11月1日						○	副団長小林要平が団長に昇任
昭和57年12月20日			○				指揮照明車購入
昭和58年7月1日		○					消防署長行澤良幸が消防長に昇任
昭和59年4月1日						○	消防団設置条例改正（定員436名から400名） 室蘭市消防後援会が室蘭市消防後援連合会に改称
昭和59年5月5日	○						みゆき町の住宅火災で4名焼死
昭和60年4月1日		○					室蘭市消防本部及び消防署の組織の改編（定数条例　231名） 消防署が旧東支署に移転し、1署3支署4出張所体制となった
昭和60年4月1日					○		副支署長を司令（課長補佐職）に昇格
昭和60年4月1日						○	消防団第11分団創設
昭和60年10月2日			○				第24回全国消防長会救急委員会開催
昭和60年12月1日						○	副団長中沢富弥が団長に昇任
昭和61年4月1日		○					定数条例改正（227名）
昭和61年4月1日			○				消防救急指令装置を更新
昭和62年4月1日		○					定数条例改正（223名）
昭和62年7月1日						○	副団長岡野清が団長に昇任
昭和62年12月16日						○	消防団第2分団詰所改築
昭和63年4月1日		○					室蘭市経済労働部長渡部源吾が消防長に就任　定数条例改正（217名）
昭和63年9月25日						○	室蘭生協から創立75周年を記念し、小型動力ポンプ付積載車が消防団に寄贈され、第4分団に配置
昭和63年10月1日			○				北海道救急医療システム運用開始
昭和63年10月2日		○					4週5休を施行し4週6休制を試行
平成元年4月1日		○					定数条例改正（215名）
平成元年11月24日						○	消防団第4分団詰所改築
平成2年1月30日						○	小型動力ポンプ付積載車が消防団第2分団に配置
平成2年3月13日		○					入江合同庁舎完成（幸支署と母恋出張所を合併移転、港湾部と合同） （1署3支署3出張所体制）
平成2年4月1日			○				定数条例改正（195名） 消防長の階級を消防監に改める
平成2年4月1日		○					救急服の導入
平成2年10月1日		○					4週6休の施行
平成2年11月2日						○	消防団第11分団詰所新築
平成3年4月1日		○					北海道広域消防相互応援協定が締結され、登別市、苫小牧市、伊達市、西胆振消防組合との消防相互応援協定が廃止された
平成3年4月1日						○	消防団本部に女性消防団員（30名）をおく
平成3年4月13日		○					土曜閉庁（第2・第4土曜日）を実施
平成3年5月16日			○				日本損害保険協会から化学消防ポンプ自動車が寄贈された
平成3年7月1日					○		出張所長を司令（課長補佐職）に昇格
平成3年7月8日					○		緊急通報システムを設置（90世帯）
平成3年10月25日		○					道央自動車道室蘭ＩＣ開通し、登別・室蘭ＩＣ間の救急業務に関する協定が締結された
平成3年12月24日						○	小型動力ポンプ付積載車が消防団第11分団に配置
平成4年8月31日			○				4輪駆動救急自動車の導入

室蘭消防沿革史

年月日	火災・災害	総務・組織・庁舎	警防・救急・車両・装備	予防・防火協力団体	消防署	消防団	内　　容
平成4年10月27日		○					道央自動車道伊達ＩＣ～室蘭ＩＣ間上り線の救急業務開始 道央自動車道伊達ＩＣ～室蘭ＩＣにおける消防相互応援に関する申し合わせ事項を伊達市と締結
平成4年12月2日			○				軽量ホース（町野式）の導入
平成5年1月13日	○						日本石油精製㈱室蘭製油所H-1桟橋でナフサ積込み作業中のタンカー「英晴丸」1,199ｔが爆発（死者3名、負傷者4名）
平成5年4月1日		○					消防署長奥村信義が消防長に昇任
平成5年5月1日		○					完全週休2日制（4週8休制）の施行
平成5年10月			○				救急救命士養成の開始
平成5年12月10日			○				高規格救急自動車の導入
平成5年12月28日			○				吸管収納型消防ポンプ自動車の導入
平成6年6月29日						○	胆振地方消防訓練大会の開催
平成6年7月25日		○					北海道広域消防相互応援協定の一部を改正する協定及び北海道広域消防相互応援協定覚書の一部を改正する覚書の締結（平成6年8月1日）
平成6年12月26日			○				水槽付ポンプ自動車の更新
平成7年2月7日			○				40m級はしご車（オートジャイロ）導入
平成7年4月1日		○					消防署長今野三男が消防長に昇任 署長の階級を消防司令長に改める
平成7年4月1日						○	副団長西重幸が団長に昇任
平成7年4月27日			○				初の救急救命士2名誕生
平成7年5月11日			○				第43回全国消防長会救急委員会開催
平成7年6月14日	○						中央町の都市型ホテル火災
平成7年11月16日			○				大震災による断水を想定し、海上保安部と合同の海上からの大送水、中継訓練実施
平成7年12月6日			○				広報車（警防）更新
平成8年4月1日			○				救急救命士制度の運用開始（平日の日中のみ運用）
平成8年4月1日				○			室蘭市消防音楽隊休部
平成8年6月5日			○				退職消防吏員による室蘭消防防災援助隊ＭＡＤＲＡ119（マドラ119）結成される
平成8年6月25日		○					北海道消防防災ヘリコプター応援協定が締結される
平成8年7月1日						○	消防分団へ携帯型無線機（1W）11台配備
平成8年9月1日		○					企業との大規模火災等の災害時における応援出動に関する協定を締結する （㈱日本製鋼所・新日本製鐵㈱・日本石油精製㈱・㈲蘭北共同防災センター）
平成8年9月3日			○				全国共通2波（148.75ＭＨＺ　154.15ＭＨＺ）の増波
平成9年1月17日			○				平成7年11月に引き続き、海上保安部と合同による2回目の震災対策中継送水訓練を実施する（阪神淡路大震災発生日に毎年実施）
平成9年3月3日			○				水槽付消防ポンプ自動車の更新
平成9年3月18日			○				大型化学消防自動車の更新
平成9年3月26日		○					大規模火災等の災害時における応援出動に関する協定を北海道電力㈱と締結
平成9年4月1日		○					定数条例改正（181名） 消防署長芳賀惠喜が消防長に昇任
平成9年6月17日	○						苫小牧沖の貨物船衝突事故による流出油がイタンキ浜に漂着し、回収作業を行う
平成9年12月19日		○					消防総合庁舎用地購入（敷地面積　5,833.66㎡）
平成9年12月25日		○					消防総合庁舎着工（建物延面積4,046.11㎡）
平成10年5月29日			○				開通を間近に控えた室蘭新道白鳥大橋上での交通事故を想定し、開発建設部、海上保安部、警察署の関係機関と合同の防災訓練を実施
平成10年6月22日			○				道央自動車道鷲別トンネルで、道内高速道路では供用開始後初めての防災訓練を深夜実施
平成10年7月1日			○				救急救命士制度の24時間運用開始
平成10年11月17日	○						中央町の洋品店で火災、673.8㎡焼損し約6時間にわたる消火活動を行う
平成10年11月30日		○					消防総合庁舎竣工
平成11年2月1日		○					室蘭市消防総合庁舎業務開始（室蘭市東町2丁目28番7号） 本部、消防署の位置を変更　消防署と輪西支署の統合により輪西支署を廃止 消防団本部、消防団第7分団及び防災センターを併設　発信地表示システム運用開始（1本部1署2支署3出張所体制）
平成11年4月1日		○					消防署長中村強が消防長に昇任
平成11年4月1日					○		消防署長を課長職（司令長）、出張所副所長を係長職（司令）に改める
平成11年6月23日	○						東町高層アパート54Ｈ－2で漏えい事故（灯油17,700ℓ 漏えい）
平成11年11月11日						○	消防団第5分団詰所新築移転（室蘭市御前水町2丁目4番19号）
平成11年12月29日			○				25m級屈折式大型高所放水車導入
平成12年1月21日			○				広報車（予防）・火災原因調査車・指令車更新
平成12年3月21日						○	小型動力ポンプ付積載車が消防団第5分団に配置
平成12年3月31日	○						有珠山の噴火　北海道広域消防相互応援協定に基づく要請により、50日間延436名が応援活動を実施

室蘭消防沿革史

年月日	火災・災害	総務・組織・庁舎	警防・救急・車両・装備	予防・防火協力団体	消防署	消防団	内　　容
平成12年4月1日				○			昭和35年8月3日に結成された消防音楽隊を廃止
平成12年4月1日						○	消防団設置条例改正（定員400名から376名） 女性分団の組織を再編し新規分団として発足
平成12年9月14日			○				水槽付消防ポンプ自動車の更新
平成12年9月21日			○				室蘭市消防力の基準を策定
平成12年9月22日			○				高規格救急車を購入し入江支署に配備
平成12年9月27日			○				救助工作車の更新
平成13年4月1日		○					消防署長久保雅康が消防長に昇任
平成13年4月1日					○		副支署長及び出張所長を課長補佐職から課長職に改める
平成13年5月17日						○	消防団長西重幸が北海道消防協会胆振地方支部の支部長に就任
平成13年8月15日		○					作業服の服制を、独自のジャンバー型から、消防吏員服制準則型に変更
平成13年12月25日			○				昭和57年12月20日に購入した指揮照明車、老朽のため廃車
平成14年2月16日			○				災害支援車の配置
平成14年6月1日		○					消防吏員採用の身体要件に関する規定に男女別の区分を設ける
平成14年9月27日			○				室蘭市救急業務高度化計画を策定
平成14年11月22日		○					高砂出張所・消防団第8分団合同庁舎竣工
平成15年4月1日		○					市民生活部付部次長（西いぶり廃棄物処理広域連合事務局次長）今秀治が消防長に就任
平成15年9月28日	○						出光興産㈱北海道製油所（苫小牧市）火災　北海道広域消防相互応援協定に基づく要請により、10月17日まで9日間延87名が応援活動を実施
平成16年2月24日			○				高規格救急車を更新し署に配備
平成16年2月26日						○	小型動力ポンプ付積載車が消防団第7・8分団に配置
平成16年4月1日		○					消防本部ホームページを全面的に更新する
平成16年9月8日	○						台風18号の上陸により、市内175件の災害に出動する
平成17年2月28日			○				白鳥台2号車（大型化学車）を更新
平成17年3月31日		○					入江支署と祝津出張所の統合により祝津出張所を廃止
平成17年4月1日		○					企画財政部管財契約課長佐藤武雄が消防長に就任
平成17年5月6日		○					作業服を更新し活動服に改める
平成17年9月1日			○				ＡＥＤ（自動体外式除細動器）の使用法を含む救命講習を開始をする
平成17年10月31日						○	小型動力ポンプ付積載車が消防団第1分団に配置
平成17年11月1日						○	消防団第1分団詰所新築移転
平成17年11月25日				○			室蘭市防火管理者協議会40周年記念式典及び祝賀会
平成17年12月1日			○				消防力の基準の一部改正を踏まえ、「室蘭市消防力の整備指針」を策定する
平成18年2月5日	○						新日本石油精製㈱室蘭製油所減圧残油脱硫装置火災、消防車両19台出動する
平成18年2月28日			○				広報車を更新し署に配備
平成18年5月1日			○				隔月（奇数月）の「防火の日」に一般市民向けの普通救命講習を開始する
平成18年6月1日				○			火災予防条例の一部改正により、全ての住宅に住宅用防災機器の設置が義務化される
平成18年8月8日	○						新日本石油精製㈱室蘭製油所№250ナフサタンクの内部浮き屋根の沈下事故
平成19年1月7日		○					消防出初式が荒天により中止となる
平成19年2月28日			○				水槽付消防ポンプ自動車の更新
平成19年10月23日			○				エアーテント購入
平成19年12月20日			○				高規格救急車を購入し本輪西支署に配備
平成20年1月1日			○				すべての救急隊が高規格救急体制となる
平成20年4月15日	○						新日本石油精製㈱室蘭精油所№242タンク火災
平成20年5月21日				○			御崎町でＰＣＢ廃棄物処理施設が処理を開始する（平成27年３月までの予定）
平成20年7月5日			○				北海道洞爺湖サミット開催に伴う「北海道洞爺湖サミット消防特別警戒」が７月５日から７月１１日の７日間実施され、室蘭市消防本部が地区警戒本部に指定され道央自動車道の警戒にあたる。室蘭市消防本部職員１６名ほか道内３消防本部からの応援隊を含む合計５４名の隊員が警戒任務に就く
平成20年8月1日					○		高砂・白鳥台出張所管内での消防隊による救急支援（ＰＡ連携）開始
平成20年9月1日						○	副団長　西澤幸治が団長に昇任
平成20年9月12日			○				石油コンビナート火災に備え、消防署本輪西支署横に平成20年度石油貯蔵立地対策交付金にて10,000リットルの泡消火薬剤備蓄タンクを新設
平成20年9月19日				○			室蘭市石油コンビナート等特別防災区域協議会から設立30周年記念として、室蘭市へ災害情報収集機材一式が寄贈された
平成20年9月26日			○				泡消火薬剤備蓄タンク新設に伴い、平成20年度石油貯蔵立地対策等交付金にてフッ化タンパク泡消火薬剤18,000リットルを購入。泡消火薬剤備蓄タンクへ10,000リットル、大型化学消防車及び泡原液搬送車へそれぞれ4,000リットルを積載する

室蘭消防沿革史

年月日	火災・災害	総務・組織・庁舎	警防・救急・車両・装備	予防・防火協力団体	消防署	消防団	内　　容
平成20年11月1日		○					西胆振広域消防会議を設置
平成20年11月21日				○			室蘭市危険物安全協会の創立50周年記念式典・祝賀会が開催される。入江広域センタービル内に移転予定の市サービスセンターへ協会創立50周年記念品として壁掛時計が寄贈された
平成20年11月29日						○	第9分団詰所移転新築 小型動力ポンプ積載車を配備
平成20年12月12日			○				空気充填コンプレッサーを購入
平成20年12月22日				○			室蘭市危険物安全協会　創立50周年記念誌（会報60号）「50年のあゆみ」発行
平成21年8月1日					○		市内全域でＰＡ連携を開始 「ＡＥＤ設置施設」標章の掲示　「ＡＥＤマップ」の作成
平成21年9月9日					○		市立室蘭総合病院ＤＭＡＴと多数傷病者発生事故合同訓練
平成21年11月13日					○		患者等搬送事業者認定制度開始
平成21年12月		○					訓練塔改修
平成22年2月			○				防火衣100着を更新
平成22年4月1日		○					都市建設部土木課長岩内洋が消防長に就任
平成22年4月1日			○				水難救助隊員養成開始（隊員4名）
平成22年7月22日					○		「救急現場における救急業務に関する協定」を市立室蘭総合病院との間で締結
平成22年8月11・12日	○						大雨により床上浸水76件、床下浸水29件などの被害
平成23年1月			○				防火衣54着を更新
平成23年1月30日						○	第10分団詰所改築 小型動力ポンプ積載車を配備
平成23年2月14日			○				高規格救急車を更新し入江支署に配備
平成23年3月11日	○						東日本大震災　緊急消防援助隊北海道隊応援等実施計画に基づく要請により3月16日から4月27日まで44日間延べ31人が宮城県石巻市で応援活動を実施
平成24年2月20日			○				署に災害対応多目的車を新規配備
平成24年2月24日			○				警防広報車を更新
平成24年4月1日		○					消防本部総務課長米野弘一が消防長に就任
平成24年8月18日	○						中島町の共同住宅で火災、消防士1名が梯子から転落し負傷。（のち12月30日に死亡）
平成24年11月27日～30日	○						暴風雪による災害通報により出動199件、救急出動5件、負傷者7名などの被害
平成25年2月14日			○				資機材搬送車を更新
平成25年2月28日			○				化学消防ポンプ自動車を更新
平成25年4月1日			○				水難救助隊運用開始（隊員12名）
平成25年4月24日		○					「水難事故、救助技術等に係る相互協力に関する覚書」を室蘭海上保安部との間で締結
平成26年2月7日			○				高規格救急車を更新
平成26年3月6日		○					「都市ガス又はＬＰガス災害対策に関する協定」を室蘭ガス株式会社との間で締結
平成26年3月7日						○	小型動力ポンプ付積載車が消防団第4分団に配備
平成26年4月1日		○					消防署長清水良彦が消防長に昇任
平成26年4月1日		○					機構改革により総務課に総務係設置
平成26年6月30日			○				水槽付消防ポンプ自動車を更新
平成26年12月25日			○				化学消防ポンプ自動車を更新
平成27年4月1日						○	副団長　佐藤幸男が団長に昇任
平成27年6月30日		○					本輪西支署と白鳥台出張所を廃止
平成27年7月1日		○					本輪西支署と白鳥台出張所を統合し陣屋町に蘭北支署開署(1本部1署2支署1出張所体制)
平成27年7月1日			○				消防救急デジタル無線運用開始
平成27年7月1日			○				高機能消防指令センター更新（出動車両運用管理装置（ＡＶＭ）運用開始）
平成27年7月8日						○	胆振地方消防訓練大会が室蘭港フェリーターミナル駐車場で開催される（12消防団300人参加）
平成27年7月31日	○						商船三井フェリー株式会社運航のさんふらわあ「だいせつ」が苫小牧沖で火災となり、8月12日室蘭港へ接岸（死者1名）
平成27年10月1日				○			室蘭市防火管理者協議会50周年記念寄贈式
平成27年12月1日						○	第10分団詰所機能が旧消防署本輪西支署に移転する
平成28年1月6日			○				高規格救急車を更新
平成28年1月28日			○				指揮車を更新
平成28年2月26日			○				化学消防ポンプ自動車を更新
平成28年4月1日		○					消防署長吉田洋が消防長に昇任
平成28年8月30日	○						台風10号の影響により、停電7,150戸、住宅全壊5件、半壊6件、土木被害276件等の甚大な被害
平成28年12月1日		○					「特定接種の接種体制に関する覚書」を市立室蘭総合病院との間で締結
平成28年12月8日		○					室蘭市消防総合庁舎屋上に非常用発電機の設置と１階電気室の浸水対策を施工する

室蘭消防沿革史

年月日	火災・災害	総務・組織・庁舎	警防・救急・車両・装備	予防・防火協力団体	消防署	消防団	内　　容
平成29年1月30日			○				火災原因調査車を更新
平成29年2月24日						○	消防団第2分団の小型動力ポンプ付積載車を更新
平成29年2月27日			○				水槽付消防ポンプ車を更新
平成29年4月1日		○					定数条例改正（150名）
平成29年4月1日						○	室蘭市消防団あり方検討会を設置し、組織、人員、活動内容等について検討する
平成29年12月31日	○						昭和22年の統計開始以降、火災件数が21件となり最少となった
平成30年1月31日			○				予防広報車を更新
平成30年2月1日						○	消防団第11分団の小型動力ポンプ付積載車を更新
平成30年2月28日			○				水槽付消防ポンプ自動車を更新
平成30年4月1日		○					室蘭市消防本部初の女性消防吏員2名を採用する
平成30年6月26日						○	消防団設置条例改正（定員376名から292名）
平成30年9月6日	○						北海道胆振東部地震　北海道広域消防相互応援協定に基づく要請により、9月6日から10月1日まで26日間延べ80名が勇払郡厚真町で災害活動を実施する
平成30年9月25日				○			室蘭市石油コンビナート等特別防災区域協議会創立40周年寄贈式
平成30年9月26日		○					室蘭市消防総合庁舎に女性消防職員専用施設を整備する
平成31年1月25日			○				機械整備車を更新
令和元年7月1日		○					機構改革により機械係から装備係に改正
令和元年8月30日						○	消防団第6分団の小型動力ポンプを更新
令和2年3月23日			○				救助工作車を更新
令和2年4月1日		○					消防署長赤木裕之が消防長に昇任
令和2年4月1日		○					課長補佐職の復活に伴い、副支署長が主幹及び課長補佐職となる
令和2年4月1日						○	第2分団と第3分団を統合し海岸町入江合同庁舎にみなと分団を開所（1団本部11分団体制）
令和2年7月1日					○		消防署長を次長職（司令長）に改める
令和2年10月19日						○	第10分団詰所移転新築
令和2年12月1日			○				はしご付き消防自動車を更新
令和3年2月1日			○				高規格救急車を更新
令和3年9月16日		○					蘭北支署に女性消防職員専用施設を整備する
令和3年10月			○				防火衣124着を更新
令和4年4月1日						○	消防団員報酬一部改正
令和4年12月19日			○				水槽付消防ポンプ自動車を更新
令和5年3月23日		○					通信指令業務共同運用に向け、西いぶり消防通信指令事務協議会設置
令和5年4月1日						○	副団長　澤口政幸が団長に昇任